

私は北海道登別市に生まれ、小学4年生までは小中学生合せて20数名の山奥で育ちました。私が小学校入学時は、“たった1人の入学式”としてNHK室蘭放送局の子供ニュースで放送されたほどの田舎でした。当時は、もちろんテレビゲームではなく、近所の子供たちと山や川で遊ぶ毎日でした。おやつと言えば、コクワ、桑の実、山イチゴなどの野山の果実で、冬には野ウサギを捕ったりするなど、野生的な子供時代を過ごしました。また、硫黄鉱山が近くにあったことから、金色に輝く黄鉄鉱を集めては“金だ金だ”と言ってはしゃいでいたことを思い出します。

大学を卒業してからいくつかの会社に就職・転職後、平成18年から現在の会社に勤務しています。社会人になってからは主に地質調査の業務に携わってきましたが、現在の会社に勤務してからは斜面災害の現場に遭遇することが多くなりました。災害の現場へ行くたびに、「事前に斜面災害の規模や発生時期を予測することはとても難しい」ことだと痛感します。しかし、発生した事象を踏まえて現地の地形や地質状況を見ると、自然から何らかのサインがあることに気づくこともあります。

人間が自然界に住んでいる以上、災害は決してなくなるものではなく、災害が発生すると社会に与える影響・損害は多大なものとなります。これからも技術力の向上に励み、人々が安全・安心に生活するための社会資本整備の一助になりたいと思います。

今、私が携わっている仕事は、山奥で生まれ育ったことと無縁ではないのだなと、つくづく思います。

山本 栄治 (やまき えいじ)

●応用理学部門(土木地質)

勤務先

株式会社 構研エンジニアリング
地質部



➡ 次号は、藤原知行さん(応用理学)

昭和27年に室蘭で生まれ、室蘭に育ち、大学もついでに室蘭。室蘭での生活は、どちらかといえば、時の流れるまま、風の吹くまま。主たる技術士経歴は平成13年3月技術士建設部門登録、平成13年3月リージョナルステート研究会(RS研)循環技術システム分科会入会、同年10月北海海域技術研究会サハリン研修旅行参加、平成14年3月技術士総合技術監理部門登録、平成19年4月業務委員会幹事、とこんな感じです。さて、本格的に技術士を目指したきっかけは、「北海道飛躍のシナリオ」との出会いです。実質的著者である故大橋猛氏の、北海道の現状を憂い、新しい北海道の姿を見出そうとする想いが私の琴線に触れました。その実現に向けた取り組みを継承し、実践しているのが北海道の技術士だと先輩に教わり、技術士の受験勉強にやっと気合が入りました。RS(自律/自立した北海道)研究会には技術士登録証の到着を待たず入会しました。私は現在、建設会社で、新たな事業起こしを担当しています。新規事業を立ち上げるに当たり、技術士であることが非常に役に立っています。技術士会の活動で得た人脈です。専門分野に関し責任を持って相談できる人(技術士)が身近にいることです。その人たちは「自律/自立した北海道」を目指して活動しています。閉塞感のある北海道経済の立て直しを図る技術者集団として、計画、研究、設計、分析、試験、評価またはこれに関する指導の業務を遂行できる技術士は、部門を超えて「北」が日本を変える原動力になりたいと考えます。この場を借りて…、室蘭栄出身の技術士、この指止まれ!『技術士スワン』(室蘭栄同窓技術士会、技術士会非公認)が待ってます。

田中 輝幸 (たなか てるゆき)

●総監部門(建設)、
建設部門(施工計画)

勤務先

伊藤組土建 株式会社
企画開発事業部



➡ 次号は、永瀬次郎さん(衛生部門)